

大牟田市立手鎌小学校

1 本校のESDの特徴

本校は、「大地に生きる手鎌・わたしたちがつなぐ農業と食文化」を活動テーマとして、ESDを健康で生きがいのある暮らしとまちづくりのための教育と捉え、ESDの実践を通して、地域を愛し、地域のために共に行動する力の育成を目標とした。

具体的には、地域とのかかわりを深める体験活動を柱に、①食への関心と健康な生活に係わる活動、②地域とつながる農業体験に係わる活動、③地域の食文化体験に係わる活動を行った。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

地域とつながり、地域とのかかわりを深める食育を柱とし、生活科・総合的な学習の時間を中心に、教科、外国語活動、道徳、特別活動との関連を図る全体計画を立てている。

生活科・総合的な学習の時間					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
「ひとつぶのたねから」	「子ども朝市をひらこう」	「共同農園をつくろう」 「海のめぐみ有明海のりづくり」	「共同農園をつくろう」 「伝えよう、『湧いねおどり』を未来へ」	「大地のめぐみお米プロジェクト」 「未来へ伝えよう手鎌の食文化『串だご』」	「日本の伝統的な食文化を伝え合おう『大豆の秘密』」

3 特徴的な活動事例

(1) 食への関心と健康な生活に係わる活動（全学年）



学級活動、体育科、家庭科、生活科において栄養教諭や養護教諭の専門性を生かす学習指導を全学年で行った。ネスレヘルシーキッズプログラムの教材を活用しながら各学年の児童の実態に応じて指導内容を工夫した。特に、食に関する指導内容である6つの観点を6学年で系統的に位置付け、子どもたちが食物の働きを理解し、食品を選択する力や食生活を改善する力を付け、学んだことを健康な生活づくりに生かすことができるようにした。

(2) 地域とつながる農業体験に係わる活動



< 「子ども朝市」「食育フェア」(全学年) >

学校で2頭のヤギを飼育しており、ヤギの糞を活用して堆肥づくりを6年生が担当している。その堆肥を利用して地域の方と一緒に共同農園で野菜を全学年で栽培している。

栽培した野菜は年間2回「子ども朝市」を開催し、地域の方へ販売した。地域の方々と野菜づくりについて会話をしながら笑顔で販売するなど地域との触れ合いを楽しむことができた。



また、1月には児童・保護者・地域住民の方々のESDへの理解を深め、学校と地域が一体となったESDの充実を図るため、「食育フェア」を開催した。

6年生は本年度学んだ「大豆を原料とした日本の伝統食」についてクイズ形式の発表。5年生は田植えや稲刈りの体験をもとに食料の大切さや米作りの大変さなど手鎌の農業についての発表。4年生は昔から手鎌地区に伝わる「黒崎がたいね踊り」の披露。



その他の学年は食育に関する取組がわかる写真や資料をパネルに展示し、地域の皆様に見ていただいた。食育を通して地域とつながり、手鎌校区の歴史と伝統文化、人を大切にして未来に引き継いでいこうとする思いをもつことができた。

(3) 地域の食文化体験に係わる活動（5年・6年）

【5年生「守り、広げよう、伝統の食文化『黒崎串だご』】



干拓の仕事や農作業の合間に食べられていた食べ物である「黒崎串だご」の原料である米を作るために地域の方に指導してもらいながら6月に田植え、11月に稲刈りを行った。串だごづくりには多くの地域の方が来校され、大切に守り継がれてきたことや伝統的な作り方を学んだ。できた串だごをお世話になっている方々に食べてもらおうと串だごの作り方とその由来を記した手作りの包み紙で巻いて公民館に持って行った。



これらの体験を通して、子どもたちは、自分たちがこの伝統の食文化を守り継いでいかなければならないと考え、串だごとその背景にある干拓の歴史と農業の発達も含めて、人々に広く知らせようと考え校内や地域に学んだことを発信した。

【6年生「日本の伝統的な食文化を伝え合おう『大豆の秘密』】

家庭科で味噌汁を作ったり6月に「しょうゆ出前講座」を体験したりしたことから、大豆について調べる単元づくりを行った。大豆の加工食品の作り方や調理の仕方、栄養などについて詳しく調べ、交流した。大豆にはたくさんのよさがあり、先人が様々な工夫を行って加工食品を受け継いできていることを地域の方に発信しようと新聞を作ったりプレゼンテーションを行ったりした。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・食育を中心として学校と地域をつなぎ、住みやすいまちづくりをしていこうとする思いをより一層強くすることができた。
- ・食文化や野菜作り体験等から、批判的に物事を考える力を発揮し、自ら課題を設定し、協働して考え、地域のために自分たちにできることを考え発信していく姿が見られるようになった。

○課題

- ・自分たちの地域のすばらしさを外にもっと広めていくことや地域が直面している問題等を子どもたちが地域の人々から直接に聞き取るなどして、主体的に地域の発展へ行動できる実践力を育てていくこと。